

敬老

人生八十年時代

敬老会招待者は三、一八一人

日本人の平均寿命は、男七十四・五四歳、女八十・一八歳で男女とも史上最長になりました。女性の平均寿命が八十歳をこえたのは、世界ではじめてで「人生八十年時代」の到来といえます。

豊栄市の敬老会は、葛塚、木崎早通の三地区が、九月十五日、岡方地区は九月二十二日、長浦地区は十月十日に行われます。

敬老会に招待されるお年寄りには、今年度中に七十歳を迎える人を含め三千八百八十一人（男千二百十八

人、女千九百六十三人）です。これは、昨年に比べ百十八人増えています。この中には、結婚五十年の金婚式を迎える夫婦六十一組も含まれています。招待者全員には市から記念の急須を、七十七歳、八十八歳、九十五歳の人には、県知事から祝葉子や記念品が贈られます。また、八十五歳の人には、石井市長が書いた「寿無量」（しあわせが永遠につづくようにという意味）の色紙が贈られます。



お年寄りといっても元気なもんです

敬老会招待の該当者数（8月31日現在）

昭和50年	= 2,065人
昭和55年	= 2,394人(50年比329人増)
昭和60年	= 3,181人(55年比787人増)

住みよき日本一!! 豊栄市

住宅環境順位

「全国一住みやすい都市はどこか」こんなテーマで「週刊東洋経済」が、全国七百七十五都市（東京二十三区を含む）を対象に住宅環境について調査しました。この結果、豊栄市が総合評価でナンバーワンに選ばれました。調査は、総務庁が五年ごとに実施する「住宅統計調査」をもとに、住宅環境に必要な十項目を抽出し、項目別に評価したものです。（調査項目と評価は、別表を参照）

豊栄市の人口増加率は県内でもトップクラスでありながら、なぜよい住宅環境を維持できたのかについてこの調査では、市が積極的に取り組んできた土地区画整理事業にあると分析しています。豊栄



整然と区画整理された住宅街

移転・増設したい工場が過半数

工業振興に関する調査

市内の工場の過半数は、移転又は増設を考えていることが市の調査で分かりました。調査は、製造、加工を行っている九十一の工場を対象に、市の商工課が六月一日現在で実施したものです。

調査結果によると、先ず市の工業発展に必要な点は、トップが工業用地の造成で、次いで企業誘致

や融資制度の充実などとなっています。工場移転、増設については移転したい工場が二十三、増設したい工場が二十六で、全体の半数以上は移転希望です。移転した主な理由は、規模の拡大、駐車場の確保、公害等の苦情の順となっており、移転の時期は、三年以内が七十八パーセントで、この大部

豊栄市の項目別評価		住みよい市 ベスト10	
持ち家	A	1	豊栄市(新潟県)
1住宅あたりの部屋数	A	2	柏崎市(新潟県)
1住宅あたりの畳数	A	3	小千谷市(新潟県)
浴室のある住宅	A	4	長井市(山形県)
日照時間5時間以上の住宅	A	5	三木市(兵庫県)
駅まで1km未満の住宅	A	6	寒河江市(山形県)
最低居住水準以上の世帯	A	7	天童市(山形県)
通勤1時間以上の世帯	C	8	新井市(新潟県)
水洗便所のある住宅	C	9	浜北市(静岡県)
非木造の住宅	D	10	可児市(岐阜県)

「非木造の住宅」の項目については、低い評価になっています。豊栄市がよりよい住宅環境を実現するためには、下水道の整備が今後の課題になってきます。

長寿番付表（8月31日現在）

男	順位	女
相馬庄三郎(山飯野) 98歳(明19・11・20生)	1	丸山トメ(中大口) 98歳(明19・11・10生)
大村昌康(笠柳) 97歳(明21・6・22生)	2	石井ミナ(中嘉山) 96歳(明21・10・17生)
小林八重蔵(上大口) 96歳(明22・1・24生)	3	橋本リサ(浦ノ入) 96歳(明22・2・10生)
倉井一二(下土地亀) 94歳(明23・10・2生)	4	宮原セツ(早通) 94歳(明24・5・19生)
渡辺道之丞(内島見) 93歳(明25・8・18生)	5	小田島ミセ(灰塚) 94歳(明24・6・7生)
小林徳四郎(内沼) 92歳(明26・7・3生)	6	大川フデ(内沼沖) 93歳(明24・9・28生)
豊島仁三郎(尾山) 91歳(明26・9・16生)	7	常木トメ(上大口) 93歳(明25・2・16生)
高橋克四郎(下土地亀) 91歳(明26・9・17生)	8	渡辺トメ(木崎) 93歳(明25・5・2生)
勝山鉄弥(上黒山三) 91歳(明27・4・3生)	9	雪井キツ(正尺) 93歳(明25・5・12生)
宮尾市三郎(大久保) 91歳(明27・6・2生)	10	田沢シズ(尾山) 93歳(明25・8・5生)



相馬庄三郎さん
「規則正しい生活を心掛けています。おかげで体に悪いところがありません」



大村昌康さん
「テレビのすもうを見るのが大好きです。毎日、新聞も読んでいます」



丸山トメさん
「自分の肌着は自分で洗濯しています。子供たちから数え99歳の祝いもしてもらいました」



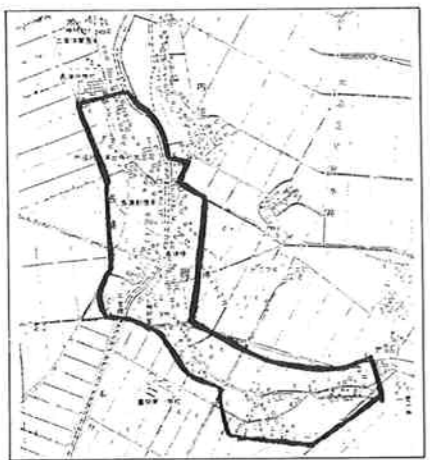
石井ミナさん
「古い写真を整理したり家の中の掃除をしたりしています。家では市長のことを「とと」と呼んでいます」

90歳以上— 66人 (男 18人、女 48人)
80歳以上— 780人 (男 280人、女 500人)

わたしの自治会

無形文化財の神楽 芸能保存会で継承

長場自治会は、駒林川をはさんで「川東」「川西」と呼ばれる地区と「鷲津」の三地区からなっています。自治会の運営は、各地区から五人ずつ選出された十五人の理事の合議制で行われています。組織は、土木部と衛生部の二つがあります。役員は、正・副会長・会計などがあつて、これが、理事の互選で決めています。また、会長が選出された地区からは、副会長や会計を選ばないことにしているそうです。自治会長をつとめて二期(四年目)の曾我昭悦さん(五十七歳)は「長場では、五年前から百二十七年七世帯の人たちが年に一回くらいは、顔を合わせて親睦を深めるこ



とを目的に「健康づくり」と名づけたスポーツ大会を実施しているんです。今年は、七月に地元にある豊栄南小学校のグラウンドで盛大に行いました。子供と親はソフトボール、お年寄りはゲートボールをしてコミュニケーションを図っています」と話していました。

長場には、昭和四十三年に市の無形文化財に指定された神楽があります。毎年八月二十二、二十三日に行われる神明宮の祭りに奉納されます。青年たちが組織する芸能保存会では、伝統ある神楽の後継者を育成しようと、小・中学生に笛、太鼓、踊りの指導をしています。

念願の長浦バイパスは昭和五十八年に全線開通し、交通量がぐっと減って地区の交通安全が図られました。

曾我さんは「駒林川の河川改修工事は、部分的に毎年実施されていますが、早く流域全部の工事が完了するよう、はたらきかけていくことが当面の課題です」と話していました。